

ONE DROP スタディツアーを終えて

1. はじめに

まず、私が今回スタディツアーの参加を決意した理由について話します。私は3年前、当時高校1年生だったころに一度目のスタディツアーに参加しました。トライやるウィーク（職業体験）でONEDROPさんの活動を知り、日本でのバザー活動に参加させていただいていた中で、私も実際に Bangladesh の ONEDROP 小学校で、教育を受けている子供たちに会いたい、また Bangladesh の日常や生活、文化などを実際に目で見て感じたいと思い、参加しました。そして今回は、当時未熟だった自分の視点や考え方とは違った見方ができるかもしれない、また自費で行くツアーのほうが自分の気持ちも無意識にも変わってくると思ったので、参加するに至りました。

2. Bangladesh の様子について

Bangladesh に行く前は、コロナの影響で不況になり、以前行った時よりも生活が困難になって生きづらい状況なのかなと思っていました。しかし、思った以上に発展しており、道路はガタガタなところが少なくなって、建物の数も増えていました。予想と反して、3年前よりも大きくいい方向に変わってきているのかなという印象を持ちました。

3. ONEDROP 小学校について

私がツアー中にずっと心に引っかかっていたことは、「Bangladesh の教育に日本人の自分が日本式の教え方や仕組みを押し付けてもいいのか」ということです。もしも自分が外国人からいきなり「日本よりも我が国のこういう教え方（または制度）のほうがいいのかどうか」と言われたら、困惑するだろうと思います。授業の先生になるという機会をいただいた際には、自分がそれと同じようなことをしているのではないかという考えが、ずっと頭の中に残ったまま過ごしていました。ただ、現地の先生の教え方を見ると、イマイチ理解度が低い授業をしているように感じました。特に英語の授業は、英単語のみを教えているだけだったことに大変驚きました。さらに、タリクさんも「ONEDROP 小学校は、他の学校と違い国際的な学校だから、特別である」と言っていました。つまり、他の学校とやり方が違うのは正当なことであるということであり、それを聞いたとき、もやもやが少なくなりました。正解が何なのかわかりませんが、自分なりに、子供たちが楽しく、かつ学んでくれる授業を作りたいという気持ちで取り組みました。

私は、外国語大学の英語学科に所属しているということで、英語の教科を担当させていただきました。1度目は、3年生に英語の歌“Head, shoulder, knees and toes…”をしました。子どもたちは英語からベンガル語に訳せていて、体の部位の英単語はすでに理解しているようでした。そして、だんだん歌がスピードアップしていくにつれて難しくなっていくのですが、それについていこうと頑張っている姿や楽しそうな姿を見ることができて、とてもうれしかったです。2度目は、4年生に好きなものを絵に描いてもらい、それをもとに、“I like ---”という文を作ってもらいました。普段は英単語ばかりを学んでいた様子だったので、簡単な文法を理解してもらいたくて、このような授業にしました。ベンガル語は本当に簡単なことしか話せないし、英語でも話せないので、授業を進めるのはとても大変でしたし、ちゃんと子供たちに「私は---が好きです」という文法を理解してくれたかどうかは、ぼんやりとしていますが、この時間中、現地の先生も一緒に参加して、協力もしてくださって、授業を作り上げられたのが、よかったなと思いました。子どもたちの好きなものを描いた絵を見返すと、今も楽しかった授業を思い出します。（他にも参加させていただいた授業はありますが、多くなりますので、英語の授業についてのみ述べさせていた

だきました。)

次に、学校で過ごしてうれしかったことを述べようと思います。私は、他のメンバーの皆さんと違って、3年ぶりの参加で子供たちや先生からしたら、知らない人が来たと思われていたと思いますが、みんなが笑いかけてくれたり、話しかけてくれたりしてくれて、歓迎されているんだと思うと、すごく胸がジーンとなりました。自分の果実をくれたり、「ゆうな」の名前を紙にベンガル語で書いて渡してくれたり、絵のプレゼントをくれたりしてくれて、感動しました。一度帰った次の日に、私の名前を覚えてくれていて、「ゆうな！」と大きな声で呼んでくれるのも、すごくうれしかったです。私が感動したことは挙げるときりがありませんが、とにかく今の日本の子どもたちに見れなくなっている、純粋さや力強さがあり、子供たちは私にとってまぶしい存在でした。一緒に過ごして、私のほうがたくさん気づきや学びが生まれました。

4. さいごに

2週間のツアーでしたが、私にとってはあっという間でした。帰りたくない気持ちも大きかったです。私が今回学び、これから大切にしていきたいことは、「外国語で海外の人々と交流すること」と、「目的を常に持ち、それに向かって生きていく」ということです。3年前と違って、英語力は上がり、英語で現地の人々と直接話すことで、インターネットや情報だけではわからない、よりリアルなバングラデシュについて、リアルタイムで感じ取ることができました（部分的ではありますが）。それは本当に大切なことで、これから世界のいろんな国に行って、たくさんの国の人と話して、新しい世界に触れたいと思いました。また、後者についてですが、私は大学生になって受験の呪縛から解放された後に、これから自分はどうなりたいのか、将来像が見えず、目的意識もなく、ただむなしく生きていました。これは、日本の若い人に多い現象だと、記事などでも見受けられていました。しかし、バングラデシュの子どもたちは違いました。将来の夢のために、どんなに貧しくても向上心を持ち、勉強に取り組んだり、働いたりしています。私は自分が恥ずかしくなりました。彼らのようなまぶしさが自分にはありませんでした。私は、前述した「たくさんの世界で多くの国の人々と交流して自分の世界を広げたい」という漠然ではありますが、そんな目標があるので、それに向かってまずは英語を頑張るとか、小さいことから取り組んでいこうと思いました。

言葉にしてまとめるのが下手で、うまく伝えられていないかもしれませんが、以上が、今回私がスタディツアーで感じたことのまとめでした。今回は、直接での報告会への参加がかなわず、大変申し訳ありませんでした。日本でも、今後ワンドロップさんの活動に参加していきたいと思っています。そしてまたいつか、バングラデシュに行きたいと思っています。これからもどうぞよろしく願いいたします。

Y.F.